

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20042

建築物名称	カリタス幼稚園
建築主	学校法人カリタス学園 理事長 齋藤哲郎
建築物の所在地	川崎市多摩区中野島四丁目1403-9、1403-1の一部
設計者氏名、建築士事務所名	清水 義文 株式会社SOU建築設計室 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,645.23m <sup>2</sup>
用途	幼稚園
構造	鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
階数	地上2階
工事完了年月	令和4年8月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

# Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	カリタス幼稚園	階数	地上2F
建設地	川崎市多摩区中野島四丁目1403-9,1403-1の一部	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	270人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	
竣工年	2022年8月 竣工	評価の実施日	2021年1月5日
敷地面積	5,530 m <sup>2</sup>	作成者	清水義文
建築面積	1,711 m <sup>2</sup>	確認日	2021年1月7日
延床面積	2,645 m <sup>2</sup>	確認者	清水義文

外観パース等  
パースの公表を希望される場合は  
図を貼り付けてください

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.0

**LR のスコア = 2.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 敷地内温熱環境の向上	敷地内に高・中・低木など豊かな緑に親しめるエリアを設けている。 建物をできる限り道から離して計画し、緑地とすることで圧迫感を低減。 空地率68%、舗装面積率を18%に抑えている。	2.6/4.3	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	中高木、庇により日陰を形成。	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	複層ガラスを採用。 吹抜トップライトを採用。 ブラインド、庇でグレアの制御に配慮している。	0.6/0.9	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	敷地内に高・中・低木など豊かな緑に親しめるエリアを設けている。 空地率68%、舗装面積率を18%に抑えている。	1.4/2.3	3.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=1.0 保育室に面して中庭を設け、採光や通風に配慮している。 BEI=1.0	2.1/5.0	2.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	自動水栓や節水型便器の採用。 リサイクル資材の使用。	3.5/4.7	3.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	中高木、庇により日陰を形成。	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.6</b>
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	自動水栓や節水型便器の採用。 リサイクル資材の使用。	3.1/4.0	3.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	ロータリーを設け、バスや自動車の出入りが円滑になるよう配慮している。	0.2/0.4	2.4
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.7</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	敷地内に高・中・低木など豊かな緑に親しめるエリアを設けている。 空地率68%、舗装面積率を18%に抑えている。	1.4/2.3	3.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=1.0 保育室に面して中庭を設け、採光や通風に配慮している。 BEI=1.0	2.1/5.0	2.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	中高木、庇により日陰を形成。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=1.0 保育室に面して中庭を設け、採光や通風に配慮している。 BEI=1.0	2.1/5.0	2.1

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体				
配慮項目		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数					
<b>Q 建築物の環境品質</b>											3.1				
<b>Q1 室内環境</b>											3.3				
<b>1 音環境</b>											2.2				
1.1 室内騒音レベル											1.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音											3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能											5.0	0.30	3.0	-	
2 界壁遮音性能											1.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											3.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音											3.0	0.20	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>											3.6	0.35	-	-	3.6
2.1 室温制御											3.0	0.50	-	-	
1 室温											3.0	0.60	3.0	-	
2 外皮性能											3.0	0.40	3.0	-	
3 ゾーン別制御性											3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御											3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式											5.0	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>											3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用											3.4	0.30	-	-	
1 昼光率											3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口											-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備											4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策											3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御											3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度											3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御											3.0	0.25	3.0	-	
<b>4 空気質環境</b>											4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策											4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質											4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気											3.3	0.30	-	-	
1 換気量											4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能											3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮											3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理											5.0	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視											-	-	-	-	
2 喫煙の制御											5.0	1.00	-	-	

Q2 サービス性能								3.1	0.30	-	-	3.0
<b>1 機能性</b>								3.1	0.40	-	-	3.1
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性							3.0	-	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応							3.0	-	3.0	-	
3	バリアフリー計画							3.0	1.00	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>								4.0	0.30	-	-	
1	広さ感・景観							3.0	0.50	3.0	-	
2	リフレッシュスペース							3.0	-	-	-	
3	内装計画							5.0	0.50	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>								2.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計							2.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保							3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>								3.1	0.30	-	-	3.1
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>								3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)							3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能							3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>								3.2	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数			R				3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔			R				2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R				3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			R				3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			R				5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔			R				3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>								3.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備							5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備							4.0	0.20	-	-	
3	電気設備							3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法							3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備							3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>								2.8	0.30	-	-	2.8
<b>3.1 空間のゆとり</b>								2.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり							1.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ							4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>								3.0	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>								3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性							3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性							3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性							5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性							3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性							3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保							3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>									0.30	-	-	3.0
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W		H	3.0	0.30	-	-	3.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G				3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>								3.0	0.30	-	-	3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>								3.0	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W		H	3.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性										2.8	
LR1 エネルギー										2.1	
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H				2.0	0.20	-	2.0
2 自然エネルギー利用		W		H				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEQ][BEIm] =	1.00		2.0	0.50	-	2.0
4 効率的運用								2.0	0.20	-	2.0
集合住宅以外の評価								2.0	1.00	-	-
4.1 モニタリング		W		H				3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制		W		H				1.0	0.50	-	-
集合住宅の評価								-	-	-	-
4.1 モニタリング		W		H				3.0	-	-	-
4.2 運用管理体制		W		H				3.0	-	-	-
LR2 資源・マテリアル										3.6	
1 水資源保護		W		R				4.2	0.20	-	4.2
1.1 節水							自動水栓や節水型便器の採用。	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								4.4	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無							井水利用は雨水利用に含める。井水利用率=4290/(2860+4290)=60%	5.0	0.70	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								3.8	0.60	-	3.8
2.1 材料使用量の削減		W		R				3.0	0.10	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R				3.0	0.20	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R				3.0	0.20	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R			床ボードにエコ製品、床にビニル系床材、天井に木毛セメント板	5.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R				3.0	0.10	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R			GL工法の採用	5.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								2.6	0.20	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避								2.5	0.70	-	-
1 消火剤		W						-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		W						2.0	0.50	-	-
3 冷媒		W						3.0	0.50	-	-
LR3 数地外環境										3.0	
1 地球温暖化への配慮		W						3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮								2.8	0.33	-	2.8
2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W		H			3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.2	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減					R			3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制					R			3.0	0.25	-	-
3 交通負荷抑制					R			2.0	0.25	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制					R			1.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-
1 騒音								3.0	1.00	-	-
2 振動								-	-	-	-
3 悪臭								-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-
1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-
2 砂塵の抑制								1.0	-	-	-
3 日照障害の抑制								3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-